

「寒河江市学校施設整備計画」地域説明会 質疑応答

会場：柴橋小学校 体育館

日時：令和4年6月30日（木）19時30分から21時00分

参加人数：28名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（質問者）

市のホームページで内容も確認しました。他地区での意見、内容で気になったのが、いじめとか不登校の問題です。大規模な学校になって増えるのか、小規模でも同じなのか、率として同じなのかデータをもっておられたら教えていただければと思います。

（教育長）

いじめや不登校は大きな問題ですし、これまでの説明会でも大規模になると増えるのではないかとご心配の声をいただきました。これまでのいじめや不登校の発生率、出現率を見てもみますと、必ずしも大規模校だから出現率が高いというわけではありません。昨年の3月

まで陵南中の校長をしておりましたが、いじめの件数につきましては、年間200件あったときもありますし、そのあと50件を切る年などもありました。不登校の出現率についても、大規模校だから小規模校よりも常に高いというわけではございません。どのような対応をしているかが大事だと思います。また、不登校やいじめについては、昨年度の件数は全国的に多くなっております。その要因はいろいろあると思うのですが、コロナの拡大で子どもたちがのびのび活動できていない、いろんな面で制約があるので、子どもたちのストレスが要因の1つになっているのではないかという分析があります。そうした子どもたちのストレスの軽減という点からも、のびのびと活動できる校舎でというのは1つのセールスポイント、子どもたちにとってのいい点になるのかなと思っております。大規模校になってなかなか1人1人に目がとどかないのではないかとのご心配もありますが、例えば、学年50人の学校と学年300人の学校では、絶対数的な言い方からすれば、小さい学校の方が目が届くと思いますが、大きい学校で教員数も多くなりますので、いろんな角度から子どもたちをみることができるということもあります。また、クラスの人数については、大規模校でも中規模校でも同じですので学校全体でみるという点からすると、クラス担任プラスアルファの教職員数が大規模になれば、多くなりますので、そうした点でも対応していくことが可能とっております。

(質問者)

いじめの件、件数ではなく、今度は、先ほどいじめがなくなるように見渡しのいいスペースになっているという話がありましたが、学校で叩いたりなぐったり、家庭や目立たないところでやってみたり、ネット上でやってみたり、そちらが主流だと思います。そちらの対応を考えなければならないと思います。そちらの方の対応もよろしくお願いします。今回の企画を見ると地域との関わりを強くと書かれています。具体的には何もされていない。企画創成課との話し合いがされていない。教育委員会だけで決めたと思えてならない。間違いなく小学校がなくなると地域がすたれます。最終段階として完全に過疎化になります。学校だけでなく地域、市全体の計画の中で進めていかないとだめだと思います。学校統合すること良い悪いありますが、それ以上に学校は地域と関わっています。そこをもっともっと他の課と話し合って進めていかないと後悔すると思います。

(学校教育課長)

ご意見ありがとうございました。このようなご質問は、他の会場でも出てきたところであります。まちづくりという大きな枠の中で検討していきたいと思っています。

(質問者)

この計画ができたときに、なんでなぜ今までしなかったのか。

(学校教育課長)

今回ご意見をいただいておりますが、ご意見については持ち帰って検討させていただきます。検討の結果どうなるかまだわかりませんが、検討は十分にさせていただきたいと思います。

(質問者)

何もならないようにだけしないようにしてください。

(学校教育課長)

ありがとうございました。

(質問者)

あり方検討委員会の答申では中学校は1校案と2校案併記になったと思います。そのあとパブリックコメントに出された意見はほぼほぼ1校統合に反対の意見だったと思います。3月の教育委員会で1校案に決まったようですが、どのような協議があって、どういう理由で1校案にまとまったのかお聞きしたいです。

(教育長)

あり方検討委員会でもいろいろ検討して、最初のころは2校案が多かったと答申にも書いてありますが、そこからいろんなことを検討していった、今のこと、これからのことを検討していくほど、中学校の1校統合、2校統合それぞれいい点もあるし、課題もあるということで、いろいろ議論すればするほど、どちらかに決めるのは難しくなっていくということです。そして、検討委員会では、1校案と2校案の併記になった状況です。ただ、答申の中にもあるのですが、その部分読んでみますと、「中学校の老朽化は喫緊の課題のためできるだけ新しい施設にする必要はあるものの、1度に2校の新築は財政的には難しいことが想定され、市内1校に統合するという選択もあり得ると考えます。統合時は900人を超える生徒数になりますが、その後、生徒数が減少していくということは厳に予想されるからです」という検討委員会のご意見もあります。教育委員会としても答申を受けて市役所内の各課で検討しまして、最終的には中学校は1校に統合ということになりました。その教育委員会の議論については、令和3年度3月の教育委員会の議事録としてホームページにのっておりますので、詳しいところはそちらでと思います。1校に決めた理由はいくつかありますが、1つは、2校としたとき、陵南中学校としてひとつ、そして、陵東中学校と陵西中学校の統合と考えたときに、陵西、陵東学区の生徒数を合わせてもだんだんと減っていくんです

ね。今の児童生徒数から計算すると、令和13年度には、陵東学区と陵西学区合わせても374人となります。これは今の陵東中学校の生徒数よりも少ない人数です。令和15年度には350人くらいになってしまう。その後も減少が見込まれる。こういった状況からパブリックコメントの答えとしても出しておりますが、将来的にはまた1校に統合することも予想される部分である。そうしたことを考えたときに2校を新しくつくるのはなかなか難しいかなということがあります。あと、教育資源、財源を1つに集中して、よりよい教育環境を作るということが、将来的に子どもたちにプラスにはたらくということ。また、市内の教育水準の確保も可能であるということも検討して、いろんな面から検討して、1校に決定した状況です。

(質問者)

ありがとうございます。他の説明会でも同じような質問がでたかと思うのですが、一方では子育て推進、人口減少を食い止める施策が進められている。今のようなご発言があると人口減少を食い止めるのは放棄したのかなと感じてしまうのですが、個人的には学校を集中させるだけでなく、子どももいろんな子がいるので、多様な教育の場ということで、大規模校だけではなく小さな学校にあって子どももいると思うんですね。先ほど紹介されていた敦賀市立角鹿小学校を調べてみたら小中一貫校でした。一貫校はいいと思うんです。中学生

が小学1年生の小さい子を縦割りでみたり、そういう活動があったり、すごく豊かな教育が行われていて、あこがれている。そういう多様な教育環境を作ることによって人が集まってくると思うんですよ。そういった議論もあってもよかったのかなと思うのですが、いろいろとパブリックコメントでいろいろ意見が出たけれども、全部無視されてこの1校案にまとまってしまった。市民の意見が無視されている感じが否めない。他のところでは決まったものが変わらないという回答だったのが、今日は持ち帰って検討というニュアンスに変わったので期待してもいいのかなと思うのですが、似たような意見になってしまいました。

（教育長）

おっしゃられたことはとてもよくわかります。そういうことも、あり方検討委員会で、いろんな検討が行われました。2校でもある程度の規模があればいいよねとか。今おっしゃられたようなことも、十分議論されました。ただ、人数が減っていく中でどうだろうか、将来的なことを考えた時、また、1校に再統合というのはどうなんだろうか。いい子育てを放棄したように感じるとありましたが、それぞれ個人の考え方いろいろですが、子どもたちがよりよい環境で学べるよなということ考えたときに、資源を集中して、1校の中で子どもたちにとっていい環境を作って学ばせたいなということになったのだ

と思います。おっしゃられたことはそのとおりですし、あり方検討委員会でも十分議論が出て、そういった議論が、あり方検討委員会でも行われてきたわけで、パブリックコメントで出されたご意見についても検討委員会でも検討されてきたわけで、パブリックコメントの意見を無視したわけではなくて、返答にも書いてありますが、議論を踏まえての結論であったということです。この計画が変わる変わらないうんぬんは、計画としては決定したと申し上げてきたわけですが、ご意見を頂く中で、説明会でご批判を受けた言い方をすると、ガス抜きではないかという意見もありましたけれども、そういうつもりでやっているわけではありません。いろいろなご意見をいただいて、そしてそれを考えて、これからのよりよい学校作りにいかしていく。将来のことも考えて、関係各課や教育委員会でも議論して、そうしたことを踏まえて、結論的に総合的に考えた時にこの計画でいこうとなるか、ここは修正してこういう風な形でやっていた方がいいのではないかなという可能性もあるということです。今日、小学校区ごとの説明会9回目ということで最後になりますが、これで終わりではなくて、こういったことも考えましたということなども含めて説明会をしたいと思っております。保護者の方が夜だとなかなか参加できないというご意見ありましたので、通知票配付であるとか、PTAの行事の時とかで時間をいただきながら説明をさせていただいてということも計画しております。そういう風にして、いろいろと意見を聞

きながら、よりよいものにしていこうと思います。

（質問者）

決定ではないんですか。

（教育長）

計画としては手続きを経て決定しております。ただ、こうしたいろいろなご意見を伺って、これからこういったところはこうすべきではないかということもあるかもしれません。変更する可能性もゼロではないと思います。

（質問者）

ゼロではないですか。

（教育長）

ご意見を聞いて、しっかり検討していくということです。

（質問者）

わかりました。まだ変わる余地はあるということですね。

（教育長）

一部修正なるに可能性もありうることだと思えます。

(質問者)

他部署との調整、もっと綿密にやっていただきたいと思えます。教育委員会単独で動いたと言われても困るでしょうし。

(教育長)

ありがとうございます。先ほども申し上げたとおり、学校の統廃合は、まちづくりと関わる場所ですので、他の課とも今後とも十分に検討していきたいと思えます。

(質問者)

まちづくりと一緒に考えているとおっしゃってはいますが、寒河江市は子どもたちは減っていく、人口も減っていく、しぼんでいく前提で作られているわけですね。だから、県内見ても全部の市町村がしぼんでいるわけではなくて、現状維持しているとか、ちょっと増えているところがあるわけですね。寒河江市としてまちづくりとして発展していくなら、せめて減らないようにするとか、そういったことをもとに考えていかないと、悲しい気持ちになる。学校も統合して、そんな風に思って、とても悲しくなりました。学校がなくなるというのは地域がなくなる、地域のまとまりが。寒河江市はもともと1つで

はなかったですよ。それぞれの村とか町ができて、それぞれに小学校、中学校があったわけですが、中学校が3つにまとめられて、地域とともに魅力ある学校を創造するために1つの大きな目標としてあげられているわけですよ。柴橋地域で考えると、そうすると地域とともに魅力ある学校を創造するとはどういうことなのかなと思いました。

(教育長)

ありがとうございます。おっしゃられたことは十分わかります。説明していて、人口が減っていくというのはいい気持ちで言っているわけではありません。さびしい思いです。私も30数年間、教員をしていましたので、子どもたちが減っていくというのは、さびしい思いで一杯です。ただ、現実を見た時に、先日の報道でもありましたように、国全体として数年前に予想したよりも6、7年早く少子化が進んでいる。1人の女性が生涯で産む子どもの数を合計特殊出生率といますが、国全体では速報値ですが1.30人、山形県は1.32人という人数字でした。令和2年度の数字で言うと、国は1.33、県は1.37、寒河江市は1.46です。国や県よりも寒河江市は合計特殊出生率が高い。それは、寒河江市でこれまでやってきた、給食の補助から始まって、小中学校の給食無料化、子どもの医療費無料化、そういった政策、成果の1つでもあると思います。そうしたことはこれ

からも続けていく。そしてなるべく減っていく状況を抑えていきたいと、できれば上向きにしたいとわれわれも考えているところです。しかし、現実はというと、そういうこともやりながらですが、なかなか人口が上向いていかない。でも校舎は、柴橋小学校は33年で築年数は浅い方ですが、他の学校は40数年経っています。学校は、来年すぐできるというわけではないので、計画的にやっけていかないといけない。学校も50年をすぎるといろんなところに問題がでてきて、子どもたちも生活しづらい部分が出てきます。そうしたことを考えたときに、ぎりぎりになってからではなくて、今のうちから計画的にやっけていかないといけない。地域のこともあります、そこで学ぶ子どもたちのことも考えなくてはならない。クラスに5、6人しか児童がいない学校も増えていきます。そうした環境がいいのか、それともある程度の人数がいていろんな刺激を受けたりとか、いろんな意見を聞いて学びを深めたり、そうした活動とか学びとかを体験させたい。これからの社会を生きていくうえで、コミュニケーション能力であったり、社会性であったりを学ばせたいという思いがあります。だから小さい学校がダメだとか複式学級がダメだとかということを行っているわけではありませんが、よりよい環境とはどうなんだろうかと考えて、こうした計画を作ったわけです。

(質問者)

卒業した学校がなくなってさみしくなるなという気持ちがあるのですが、統廃合計画を前向きに受け止めた上で、おもしろいと思ったのが、共有スペース、廊下とかで遊べるスペース、これについてはおもしろいと思います。今、不登校までいかないまでも学校に行きにくさを感じている子どもたちはいると思います。そういう子どもたちの心のストレス、軽減につながればいいかなと。もちろん、学校は学ぶ所ですから、規律とかの線引きをどうするかという課題があると思うのですが、こうしたことは積極的に取り組んでほしい。もう1点、寒河江市のスポーツ教室に通っているのですが、他の学区の保護者と話す機会があるのですが、この計画ですと2031年に柴橋小、中部小が統合という予定になっております。気になったのが、大人向けの説明会はなされているのですが、統廃合する小学校の子どもたちにどういう風に周知していくか、子どもたちの気持ちを統合にむけてどうもっていくか、こういったことを詰めていってほしい。保護者の方に話を聞くと、不登校児に対する中部小学校と柴橋小学校の対処の仕方それぞれ違うんです。柴橋小学校では、保健室で自主的に避難させていただけるという状況が整っているのですが、中部小学校ではそういうことは認められていない。統合したときにどちらによっていくのか、うまい妥協点がみつければといったところです。最後に、今回の趣旨とはずれてしまうのですが、21人から33人だと適正人数、現状で40人超えている学年があるんです。通常学級と特別

支援学級の子を合わせると超えてしまう学級があるので、現状にも目を向けて教育課程の解決も考えていただければと思います。

（教育長）

ありがとうございます。子どもたちのストレスの軽減といいますか、今も登校を渋っている子どもさんはどこの学校にもいる状況であります。その対処は非常に大事だと思います。今、具体的に柴橋小と中部小では登校渋りの対応が、保健室登校ができる、できないというように違うんだとありましたが、新しい学校ではそういった子どもたちが、気持ちを楽にして学べる、例えば、陵南中ではそういった子どもたちが学ぶスペースを作っております。そういったことも新しい小学校の中では考えていくこともできると思います。また、このロードマップでは、2031年に統合することの検討を始めるということですので、この計画でいうと、令和13年度に中部小学校と統合するというわけではありません。同じように寒河江小学校と南部小学校についても、校舎もだいぶ古くなってきていて、新築を考えたときに、そのときと将来の子どもの数を考えたときに統合すべきではないかとか、まだ大丈夫ではないかという検討を始めるということで、柴橋小学校については、2031年に小学校を統合するという計画ではありません。

(質問者)

新校舎になってからのすり合わせではなく、新校舎になる前からこういう学校はこういう風に不登校児の受け入れについては、やっているんだよというところを統合前に子どもたちにも話できればと思います。

(教育長)

ありがとうございます。どういう対応するかは統合になってから考えるのではなくて、数年前から教員は教員同士で、PTAはどういった体制になるかも含めて、その統合に向けての準備をする会議を作ってやっていきたいと思います。また、子どもたち同士も、例えば、幸生小学校が白岩小学校へ統合になりましたが、数年前から学年で一緒の活動などを行っておりますので、そういったことも計画しながら子どもたちの気持ちも大事にしながら対応していきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

(質問者)

今日は説明会開催ありがとうございます。3点ほど質問します。1点目ですが、文科省のホームページを見ると 昭和50年代くらいから建設された学校は、日本でたくさんあるので、建て替え計画を進めるとお金がかかりすぎるので、長期耐震化を進めるとホームページ

に記載がありました。鉄筋コンクリート建物が40年くらいもつとなっていますが、少なくとも文科省のホームページでは、減価償却的なものであって、もっと使える。現状において人数が減っていくわけですが、中学校1校にするとだいぶ人数が多い。耐震をして、2校に統合。そして、本格的に人数が少なくなったときに新校で1校作るプランは、出なかったかのかなと。2点目、不勉強だったのですがいじめに関してはクラスの規模、いじめの数の相関関数は調べられなかった。学力に関しては、クラス規模との相関関係が認められる論文があったんですが、どう考えていらっしゃるのか。3点目は、寒河江市だけの問題だけでなくなるのですが、朝日、大江、西川は廃校、休校だらけ。例えば、今の1年生は、西川町23人、大江町66人、朝日町が31人。少ないんですよ。どちらかというとな寒河江市だけの問題ではなく、西村山広域として考えていかないと、西郡が廃校休校だらけになる。もう少し広域で考えることはできないのか。

(教育長)

3点目からですが、西川、朝日、大江の1学年の子どもの数が減っておりまして、去年、おとしあたり西川町で生まれたお子さんは、20人くらいだったと思います。大江町でも30人くらいの状況です。それぞれ学校の統合についてのあり方検討委員会ができてるところもあるし、できつつあるところもあります。河北町の中学校は1校

になりましたが、小学校は6校あります。しかし、児童数がどんどん少なくなっていて、今年度に入ってあり方検討委員会ができました。いろいろ聞いてみますと、校舎も老朽化している、どこも同じような時期に作られているので、統廃合も考えていかなければならない。先ほども申し上げましたが、少ない人数の中での活動は制限される部分もありますので、町全体でも集めても少ないんですけども、2から3校に分かれて数名よりも、まだ十数名いればということもあって考えている状況だと思います。学力については、相関関係があるかどうかについては、どうでしょう。中学校の教員を30数年間、指導主事として学校に行つての授業改善の指導・助言等を行ってきましたが、大きいから学力が低い、小さいからいいということではないと思います。その中でどういう風に指導していくか、小学校との連携をどうしていくかが大事で、例えば、全国の学力検査がありますが、3年くらい前は寒河江市の中学校が全国平均より悪かった。中学校の校長として何とかするために、小中学校の連携が大事な点だと思ひまして、寒河江市の教育研究所というのも中学校区ごとに研究組織をつくってやっています。そうした取り組みであるとか、授業そのものの改善等で、学力検査等の結果も上がってきました。昨年度は、全国平均よりも上になってきている状況でございます。学校の規模ではなくてどのような教育をやっていくかが大事で、学力を考えると、例えば陵南がよくなった1つの要因として、社会科の先生が4、

5人いるわけです。小さい学校だと1、2人しかいない。4、5人いる同じ教科の先生たちが、時間割の中で教科部会を行って、毎週1時間の中で話し合いができる。そしてそれを授業にいかしてきた。それが結果的に成績向上につながってきている。そうした面でもある程度の教員数がいるということは、結果的に子どもたちにプラスになるということだと思います。文科省の改修工事、いわゆる長寿命化ということがありますが、あり方検討委員会でも検討されたのですが、50年を超えてくると大規模改修というのもとっても大変な状況になります。陵西中の校長もしましたが、毎年このへんがだめだとか、いっぱいありまして、そうしたことと人口動態を考えたときに、小学校も含めてこういった計画を早めに作って、お金もかかりますので、例えば、3校を1校にしたときにいくらとは申しあげられませんが、参考までに申し上げますと、高畠町では4つの中学校を高畠中学校として1つの中学校にしました。700人弱の人数だったのですが、新しい校舎、グラウンドも含めて50数億円かかっております。そうしたことから、例えば、2校つくれば倍にはならないと思いますが、かなりの金額が必要となります。そうしたことも、当然考えなくてはならないと思います。国からの補助金はありますが、基本的には市の方で払っていかなければならない。そうしたことも含めながら総合的に考えたという状況です。

(質問者)

わかりやすい解説ありがとうございます。個人的な要望ですが、先ほどの方からもありましたとおり小中一貫校、中高一貫校は今の流れだと思います。とくに小中一貫校を作れば、小学校6年生の時、中学校の先生が中学校のことを先に教えてもらえる。学力向上につながる。せっかく全部建てるのであれば、小中一貫校をとったんです。ご検討いただければ幸いです。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。

(質問者)

仮に中学校1校になったときに、よく言われるのが冬場、陵南中の前で送り迎えする車がいっぱいいいて一般の車両が通りづらい。統合なればとんでもないことになると思うんです。スクールバス、自転車通学、歩いてくると、これは道路に迷惑かからないように学校内でロータリー作って回すとか、車で来るなといっても来ます。来る前提で考えていただければと思います。

(教育長)

ありがとうございます。大規模校にしたときに、中学校1校にしたと

きの課題いくつかあるのですが、私が一番心配しているものの1つは、登下校、特に冬場の登下校です。陵南中学校でも、歩いてこようと指導しています。遠いところから乗せてきてもらったときでも、中学校の近辺で降ろすと朝のラッシュ時間帯なので危ない。乗せてもらったときは、ふるさと総合公園のところ降ろしてもらいなさいと指導しております。しかし、学校のすぐ近くで降ろしてもらっているのが現状です。まわりに迷惑をかけることは避けなければならないと思いますので、幹線道路と学校の位置の関係をしっかり考えていかなければならないと思っております。

(質問者)

3月の教育委員会の議事録を見ていて、そのなかの話で、寒河江市で一番大きい学校、中部小学校に不登校児童がいなかったりと書いてあったりするんですが。

(質問者)

この時期はいなかったということですか。

(教育長)

3月時点でのことですので、その時点ではそうだったということです。先ほども話題になりましたが、人数が多いと出現率が増えていく

ということではないということです。不登校もいじめも、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうるという危機意識をもって、子どものことをしっかり見ていく。そうしたことを学校としてしっかりやっていく、教員一人一人がやっていくことが大事なことだと思います。